

伊丹市中心市街地活性化基本計画

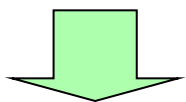
(計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

○江戸時代から酒造業・俳諧文化の中心地として繁栄。明治以降は、大阪都市圏の住宅都市として発展。

○震災により、中心市街地機能が大幅に低下(阪急伊丹駅倒壊、商業テナント撤退)

○旧計画で中心市街地に大規模小売店舗を誘致(イオンモール)。波及効果を狙うが、中心部への取り込みが図れず、空店舗が増加するなど機能低下。



○歩行者通行量(休日)の減少

(H6: 15,662人→H19: 11,998人[△23%])

※調査ポイント5地点のうち阪急伊丹駅周辺の中心部3地点

○中心市街地の小売商業の衰退

(H6: 298億円→H16: 171億円[△43%])

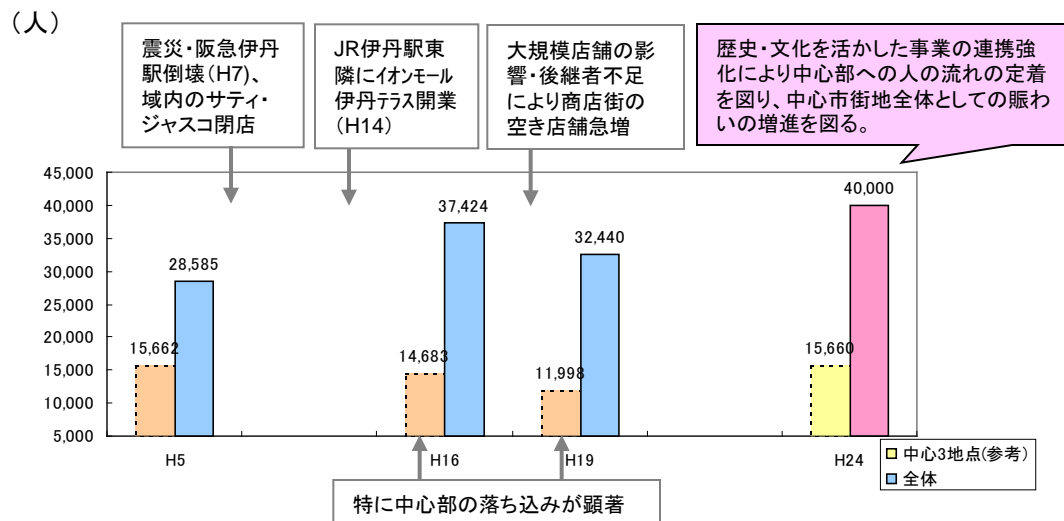
○空き店舗の増加

(H11: 41店舗→H19: 113店舗[2.7倍])

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24)
暮らしやすく集い学べる郷町(まち)なか	文化施設(9施設)利用者数	600,600人(H18)	1,146,000人
歩いて楽しい郷町(まち)なか	歩行者・自転車通行量	32,440人(H19)	40,000人
活気あふれる郷町(まち)なか	まちづくりサポ-タ制度登録者数	60人(H19)	445人
	空き店舗数	113店舗(H19)	78店舗

(中心市街地の歩行者・自転車通行量と数値目標)



江戸時代、清酒発祥の地などのまち衆が文人を支え、俳諧文化を楽しんだように、市民によるまちづくり活動と図書館など文化施設の整備・連携強化を並行して進めることにより、住む人・来る人が集い、学び、楽しめる中心市街地を目指す。

伊丹市中心市街地活性化基本計画の事業概要

集い学べる郷町(まち)なか

○中心市街地外から**図書館を中心市街地に移転**。周囲の景観やバリアフリー等に配慮するとともに蔵書の充実やコンピューターシステム等機能の充実を図ることにより、市民のまちなか文化活動の拠点づくりを行う。



新図書館(イメージ)

○図書館と同敷地内に演奏会、映画会、文化講座等を実施できる「**交流センター**」を設置。子供への「読み聞かせ会」などを定期的に開催し、「ことば文化活動」を推進。

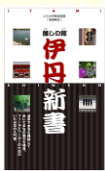


「読み聞かせ会」

○「酒」「俳句」「工芸」など伊丹にゆかりのテーマを中心に**文化施設でのイベントと体験型イベントとの連携事業**を増やし、中心市街地で体験しながら学べるまちづくりを推進



俳諧塾(イメージ)



伊丹学検定(公式テキスト)

歩いて楽しい郷町(まち)なか

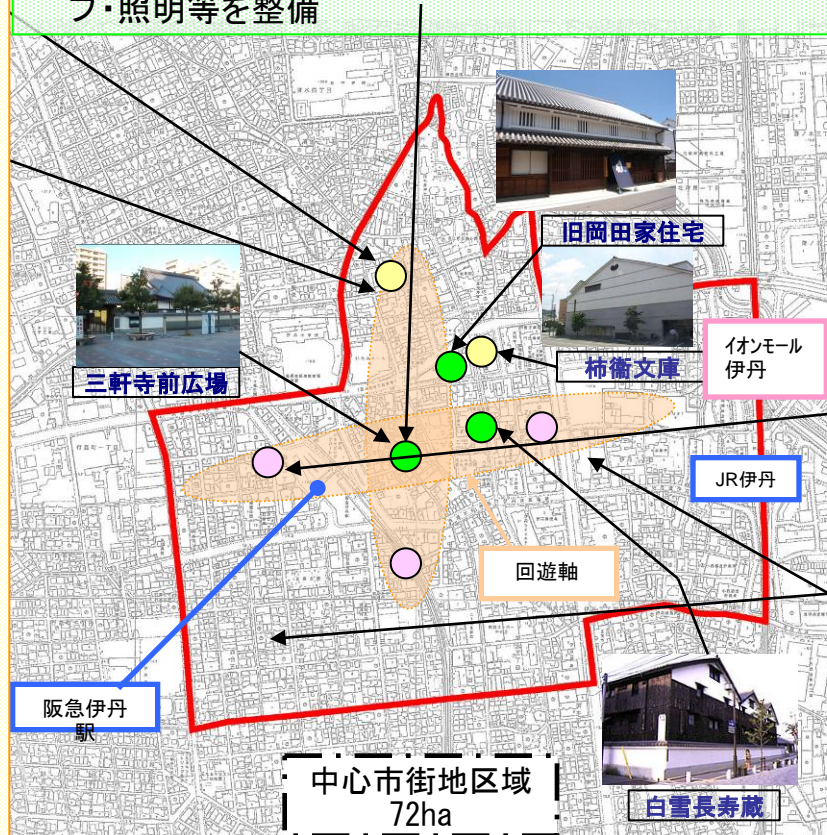
- 基盤整備を実施した「三軒寺前広場」を市民のステージに見立て、毎週末に清酒・俳諧など伊丹ゆかりの文化イベントを中心に実施。
- まちなかスタンプラリーの実施により、回遊性を高める。
- 都市景観条例により景観イメージの統一を図るとともに、三軒寺前広場を「伊丹郷町まちの駅」としてスロープ・照明等を整備



「冬の元気まつり」



「伊丹を歩くワンデーウォーキング」



活気あふれる郷町(まち)なか

～市民(まち衆)主体のまちづくり～

- NPO法人や学生など市民によるまちづくりへの参加をさらに進め、主体的にまちづくりをすすめる人材を育成
- 地域情報ポータルサイト「いたみん」を開設。**サイト登録料を補助**し登録店舗数を拡大。
- 学生と商店街の連携イベントをはじめ市民を中心にした実行委員会方式でさまざまなイベントを実施。



「伊丹まちづくり大学」



地域情報ポータルサイト「いたみん」



伊丹ハロウィンパーティー

活気あふれる郷町(まち)なか

～魅力ある商業空間の形成～

- 駅前商業ビルを**改装**。最寄品等中心市街地に不足している商業機能を強化。



改装後イメージ

- 中心市街地での**商業施設新築・増改築への支援制度、家賃補助制度の拡充**等により出店及び高機能化を促進



制度の活用により整備した「郷町長屋」



クラフトショップ(イメージ)